

YNU

キャリア教育ガイド 2015



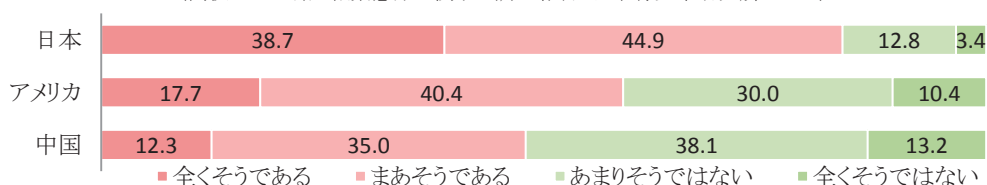
横浜国立大学
大学教育総合センター キャリア支援部

なぜ、いま、キャリア教育なのか

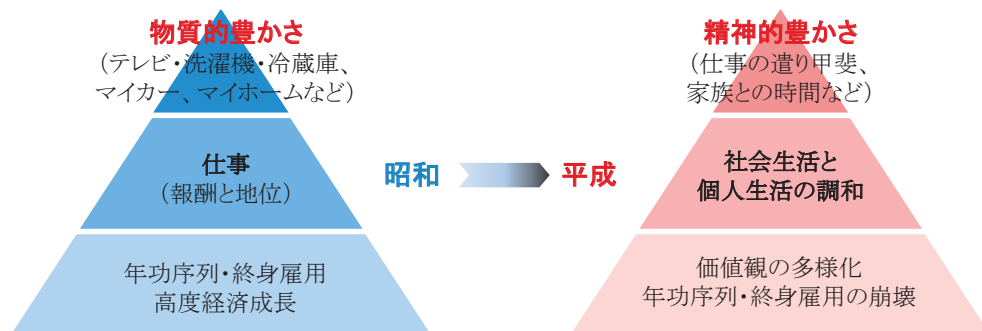
皆さんは、大学を卒業したら、どうしますか？ きっと、就職しますよね。では、なぜ働くのですか？ 生活費を稼ぐためだけですか？ どんな仕事がしたいですか？ その前に、そもそもあなたはなぜ大学に進学したのでしょうか。大学で何がしたいですか？ なぜ横浜国大なのですか？ 明確な考えがない人、今後の学生生活や将来に不安を感じている人が多いのではないのでしょうか。高校生の意識調査を見ても、海外に比べ日本の高校生は将来に関して悲観的なことが窺えます。その背景には文化的な差、経済状況や労働市場の違いがあると言われています。

進路について考えるときの気持ち：将来自分がどうなるか不安になる

(高校生の進路と職業意識に関する調査報告：日本青少年研究所 2013)



時代の変化に伴って、人々の価値観は多様化しています。戦後の高度経済成長期から1980年代までは、物質的な豊かさが求められ、がむしゃらに働けた、ある意味よい時代でした。1991年のバブル崩壊以降、企業倒産や、リストラにより職を失う人々も増え、年功序列・終身雇用のシステムが機能しにくい時代になるにつれ、出世よりも安定した職業に就きたい、家庭生活やプライベートの時間を大切にしたい、と若者の意識も随分変わりました。



ITやインターネット産業の発展、さらにビジネスのグローバル化に伴い、変化の激しい時代にもなりました。そうした経済、社会状況の中では、自分の将来を会社任せにするのではなく、自律的にキャリアを形成する意識と行動が必要です。すでに物質的に豊かな時代になり、モノやお金だけではない、自分自身や家族を大切に生きるかた、自分らしい働きかたを模索する人々も増えているのです。キャリア形成を自分の課題として捉え、将来を構想する主体性と、それを可能にするキャリア教育が、今、求められています。

そもそもキャリアって、なに？

「キャリア」ということばから、あなたは何を連想しますか。キャリア官僚、キャリアウーマン、キャリア・アップ、昇進のルールに乗った人など、エリートや勝ち組のイメージが一般的です。でも、キャリアに勝ちや負けがあるのでしょうか。

そもそも「career」の語源は馬車レースのコース、馬車の車輪の跡で、何かが通った後にできる軌跡、道筋の意味です。キャリア研究者は、人生の中で職業の部分に限定した狭い意味でのワーク・キャリアと、人生全般と捉える広い意味でのライフ・キャリアがあると定義しています。

ライフ・キャリア(広義のキャリア)

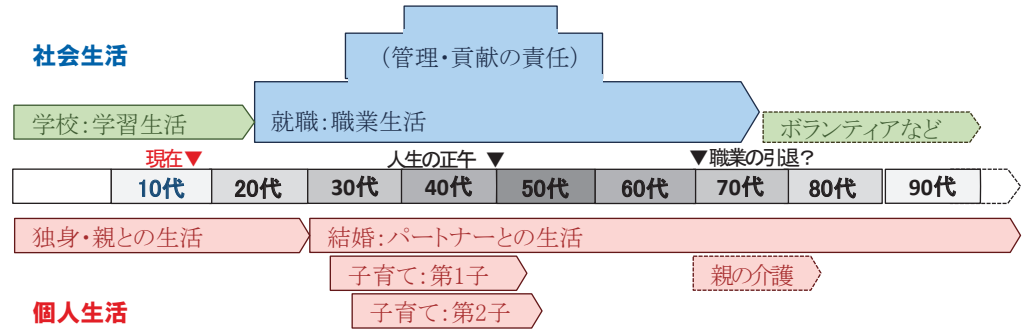
- 仕事以外の個人生活全般
- ・ 家庭生活
 - ・ 地域社会との係わり
 - ・ 個人の活動(自己啓発、趣味)

ワーク・キャリア(狭義のキャリア)

- 人生の中で職業に関わる部分
- ・ 仕事の経歴
 - ・ 職務内容

進学・就職は通過点、人生の視点で考えよう

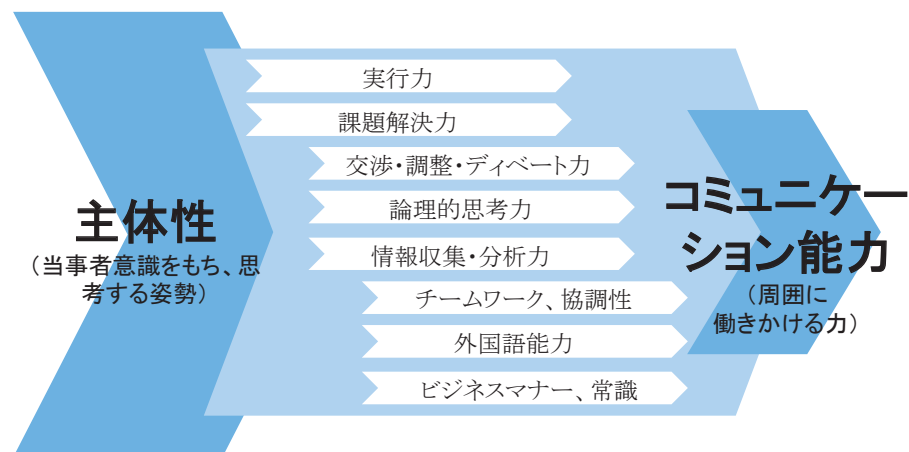
下図はライフ・キャリアのタイムラインを示しています。皆さんはこの図を見て、どんなことを感じますか。結婚や子育てはまだ想像がつかない、仕事に加えて子育てや親の介護など、いろいろ大変そう、定年後の人生も長い……。皆さんが50歳になる頃、平均寿命百歳の時代が到来すると予測されています。まだ20年ほどしか生きていない皆さんには、想像がつかないほど長い時間ですね。これまでの20年は、学校で何かを学び成長するのが皆さんの役目でした。大学を卒業して社会人になると、仕事で世の中に貢献したり、結婚し家族を守り育む役目に移行します。将来的には年老いた親の世話をすることもあられるでしょう。職業を中心とする社会生活と個人生活との調和、さらには統合がますます大切になります。



学校教育で「キャリア」というと、進学や就職のことを連想しがちです。しかし、進学も就職も人生の通過点に過ぎません。皆さんがこれから切り拓いていく約80年の人生を、就職や仕事の面だけでなく、私生活を含めさまざまな角度から捉える概念が「ライフ・キャリア」です。横浜国立大学のキャリア教育では、人生の視点から自分のキャリアを構想できる人材の育成に努めています。

自ら考え、行動できる主体性を身につけよう

技術は日々進歩し、新たなビジネスが生まれ、企業の海外進出が進んでいます。そんな時代に必要とされる人材、社会に貢献できる人材とはどんな人でしょう。皆さんが学ぶ専門分野の知見はもちろんですが、組織集団の中で状況に適応しつつ何が必要か、どうすべきかを自ら考え、判断し、主体的に行動できる人材が求められています。課題解決力、交渉力、協調性など広く社会で必要な基礎的・汎用的スキルを「就業力」と呼びます。本学で実施した産業界へのインタビュー調査の結果、主体性が原動力となって課題解決力などの就業力を発動させ、コミュニケーション能力により周囲に働きかける構造がわかりました。何かに取り組む際の《主体性》という実体が掴みにくいものを、学業を通じていかに学生の皆さんに《体感》させるか。それがキャリア教育の肝と捉え、主体的な学びの実現を目指して授業方法の改善を進め、初年次段階からキャリア教育の充実を図っています。



さらに、横浜国立大学では、「幅広い教養や確かな専門知識に基づいて、積極的に課題解決に取り組み、適切に判断する人材に求められる力」を、「知識・教養」、「思考力」、「コミュニケーション能力」、「倫理観・責任感」の《4つの実践的「知」》として教育目標に掲げています。各学部の専門教育、キャリア教育を含む教養教育において、この、4つの実践的「知」の育成に努めています。

- ・このページを複数枚コピーし、行動計画を記入してみましょう
- ・記入した行動計画は学期末に見直して、新たに書き直しましょう

学生生活:

1年次

2年次

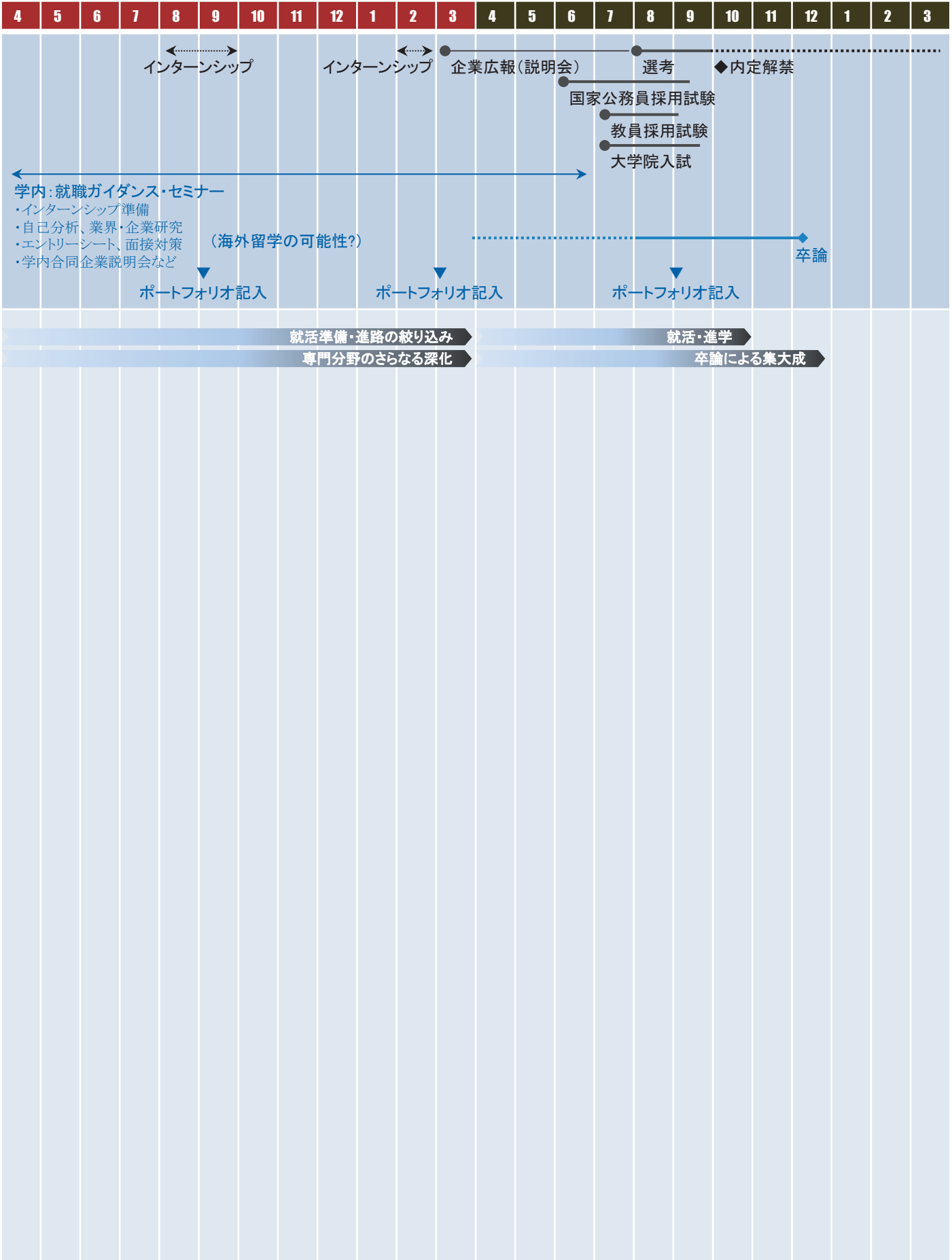
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				←-----→ インターンシップ												←-----→ インターンシップ							
																		(海外留学の可能性?)					
▼ ポートフォリオ記入				▼ ポートフォリオ記入						▼ ポートフォリオ記入						▼ ポートフォリオ記入						▼ ポートフォリオ記入	
→ 就活準備・進路の絞り込み												← 知識・教養の拡大 ← 専門分野の深化											

行動計画表

(年 月 日記入)

3年次

4年次



キャリア関連科目が、キミのやる気を引き出す

主体的な学びの姿勢を獲得すること。それが学業充実の第一歩です。キャリアデザイン志向・関連科目では、従来型の講義中心の授業ではなく、グループ・ディスカッション、課題解決型プロジェクト、現役社会人との対話、体験学習など多様な手法を取り入れ、皆さんを主体的な学びに誘います。各学期で1科目を目安に、興味のある科目を履修しましょう。以下にキャリア関連科目の一部を紹介します。

→ 高校までとは違う何か、新しいことを始めたい

- ・まなび座Ⅰ・校友会リレートーク(春学期、教養教育、1年対象)
- ・Wake up! プロジェクト(春学期、教養教育、1年対象)
- ・マイ・プロジェクト・ランチャー(秋学期、経営学部、全学年対象)

→ 自分の将来やキャリアについて考えたい

- ・キャリアデザインA(春学期、教養教育、1～2年対象)
- ・キャリアデザインB(秋学期、教養教育、1～2年対象)
- ・ライフ・キャリアを考える(秋学期、教養教育、全学年対象)
- ・キャリア形成論(春学期、経済学部、2～4年対象)

→ 現役社会人からキャリアや働く意義を学びたい

- ・経営者から学ぶリーダーシップと経営理論(春学期、教養教育、全学年対象)
- ・ベンチャーから学ぶマネジメント(秋学期、教養教育、全学年対象)
- ・社会における実践体験－富丘会メッセージー(春学期、経済学部、2～4年対象)
- ・キャリア・ケーススタディ(秋学期、教養教育、2～4年対象)

→ 社会人になるための基礎力を身につけたい

- ・横浜学一地域の再発見ー(春学期、教養教育、全学年対象)
- ・ビジネス・コミュニケーション(秋学期、教養教育、2～4年対象)

→ 専門分野と社会との係わりを知りたい

- ・材料学入門(春学期、教養教育、全学年対象)
- ・機械工学と社会とのかかわり合い(春学期、教養教育、全学年対象)
- ・システム・エンジニアリング(春学期、教養教育、全学年対象)
- ・コンピュータシステムとコミュニケーション(秋学期、教養教育、全学年対象)
- ・物理工学と先端技術(春学期、理工学部、2～4年対象)
- ・資本市場の役割と証券投資(秋学期、経済学部、2～4年対象)

→ 実体験を通して働くことを考えたい

- ・インターンシップ(各学部)
- ・地域課題実習I/II(春/秋学期、教養教育、全学年対象)
- ・学外活動(教育ボランティア)(春/秋学期、教養教育、全学年対象)

キャリアデザインA

自分がどのような人間なのか。世の中にはどんな仕事があってどのような仕組みで動いているのか。それらを知ることが、自律的なキャリア形成の第一歩です。前半は、さまざまなワークを通じて自分の特徴を探ります。後半は、チームに分かれて業界や職業を調べ、レポートをまとめ発表する「職業探検」に取り組みます。

Wake up! プロジェクト

産業界の協力のもと、2つの企業の現実課題にチームで取り組み、企業に解決策や企画案を提案します。正解のない課題に挑み、チームで解を求める活動を通じて、大学で「主体的」に学ぶとはどのようなことか、を自己発見的に修得するのが目的です。この授業が終了するとき、これまでとは違うあなたに、きっと成長しているはずですよ。

まなび座Ⅰ・校友会リレートーク

履修科目の選びかた、大学生活への適応のしかたなど入学段階で戸惑うこと、学業と将来の進路の係わりなど、上級生や卒業生の体験談をヒントに、自分らしい答えを導く糸口を探ります。校友会の協力で、個性と熱意溢れる先輩たちが登場し、車座になって(実際にはなれませんが)語り合います。今年旗揚げの新規科目で、何が起きるかは未知数!!

横浜学一地域の再発見ー

この科目は学生発案で生まれました。横浜市職員を講師に、授業の前半は横浜市の現状や行政課題についての講義、後半はディスカッションです。最終的にはグループで横浜市に対する政策提案を考え、プレゼンテーションします。本授業では、新しい視点から地域について問題意識を持ち、課題解決に結び付ける力を養うことを目指します。

ポートフォリオを活用し、セルフチェックする

学務情報システムには、学修成果を可視化するツールとして「YNU学生ポートフォリオ」があります。たとえば、ポートフォリオの「キャリアデザインシート」では、学期ごとに振り返りを記録することで、次学期の取り組み課題を意識し、自律的な学修を促進することができます。日々蓄積した学修記録は、就職活動時にも自己PRや面接で話す材料として活用できます。1年生から、YNU学生ポートフォリオの活用を習慣づけましょう。

キャリアデザインシート						
	入学前	入学時	1年生10月	1年終了時	2年終了時	3年終了時
0 入学前(高校時代)の自分を確認しておこう	編集 参照					
1 入学時の自分を確認しておこう		編集 参照				
2 入学してからの半年を振り返ってみよう			編集 参照			
3 この一年を振り返ってみよう				編集 参照	編集 参照	編集 参照
4 まわりとの関係に目を向けてみよう				編集 参照	編集 参照	編集 参照
5 将来に向けて何を考えたらろう				編集 参照	編集 参照	編集 参照

なお学務情報システムには、YNU Portalサイトからアクセスできます。
<https://portal.ynu.ac.jp/campusweb/top.do>

キャリア・サポートルームを覗いてみる

就職活動はいつ始めればよいのか、何をすればよいのか、不安でいっぱいでしょう。でも、大丈夫。学生の皆さんの就職活動全般を支援するキャリア・サポートルームがあります(キャンパスマップ S5-① 学生センター3F)。キャリア・サポートルームでは、以下のサービスを提供しています。どんなところか、一度覗いてみてください。

- ・ 就職関連情報の収集
- ・ インターンシップ情報の収集
- ・ 公務員試験情報の収集
- ・ 卒業生の進路先・OB/OG名簿の閲覧
- ・ ビジネス雑誌・就職参考本の閲覧
- ・ 大学に届いた求人票の閲覧
- ・ 個別就職相談



さらに、就職活動のしかたを学ぶガイダンス、業界研究や各種セミナー、面接対策などさまざまな角度から就職活動をサポートしています。

経験豊富な卒業生が、就職全般に関わる相談に応じています。進路や面接のポイントなど社会人の視点からアドバイスし、学生一人ひとりをバックアップします。

就職活動を知る	就職ガイダンス	公務員ガイダンス	内定者との座談会
	インターンシップ講座	スケジュール&マナー講座	
考える	自己分析セミナー・ワーク	業界研究セミナー	
	仕事研究セミナー	業界別就職セミナー	学内合同企業説明会
社会人と会う	OB・OG訪問、OB・OG相談会		官公庁合同説明会
	筆記試験対策講座	エントリーシート対策講座	グループディスカッション対策講座
個別相談	個別就職相談・面接練習・エントリーシートのアドバイスなど		

キャリアに関する本を読んでみる

キャリアや生きかたについて考えたいときには

キャリア形成の考えかたや職業人としての生きかたに関しては、キャリア理論やキャリア形成の実例など、さまざまな視点からたくさん書籍があります。それらの中から、おススメの本を8冊紹介します。これ何だろう、と思ったら、ぜひ読んでください。

『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎・著 岩波書店 1982

主人公の中学生・コペル君は粉ミルクがどうやってできるかと考えて、「人間分子の関係、網目の法則」に行きつく。政治学者の丸山真男が巻末に寄せた『君たちはどう生きるか』をめぐる回想も読み応えあり。今や古典的名著と言える。

『その幸運は偶然ではないんです！』 J. D. クランボルツ & A. S. レヴィン・著 ダイヤモンド社 2005

キャリアは偶然の出来事で8割決まる。たとえ偶然に起きたと思った出来事でも、それは自分自身の何らかの意志や行為があって、その結果として、必然的に偶然が起きたのだ。積極的に偶然を引き寄せるポジティブな行動を起こせ。クランボルツのPlanned Happenstance理論のエッセンス。

『キャリアショック』 高橋俊介・著 ソフトバンククリエイティブ 2006

キャリアに勝ち負けはない。肩書や年収でなく、自分で自分のキャリアを幸せと思えるかどうか。幸せの根源はあくまでも動機にある。仕事と動機のマッチング(自分のコンピタンスを發揮できるかどうか)で幸せの度合いも変わる。

『若者はなぜ3年で辞めるのか?』 城繁幸・著 光文社 2006

東大卒、富士通人事部出身の著者が、年功序列・終身雇用のルールを自ら降りた若手エリートたちの思考と行動を追いつつ、現代企業社会の課題を炙り出す。

『道は開ける』 デール・カーネギー・著 創元社 1999

長年のインタビュー調査を基に、人間に共通する悩みの実態と克服法を、実例で解説する。人間関係の機微を描いた『人を動かす』の姉妹書であり、ビジネス・パーソン必読の書。

『携帯版 思考は現実化する』 ナポレオン・ヒル・著 きこ書房 2005

夢や目標を実現する第一歩は、強くそう願うこと。鉄鋼王アンドリュー・カーネギーの依頼で多くの聞き取り調査の末に、万人に共通する成功哲学を見出しまとめたもの。

『どんな仕事も楽しくなる3つの物語』 福島正伸・著 きこ書房 2008

駐車場の管理人、タクシードライバー、ペンキ屋。著者が偶然出合った3人の職業人としての心意気を描いた物語。仕事って、いいなあと思える本。

『日本型キャリアデザインの方法』 大久保幸夫・著 日本経団連出版 2010

20代はいかだ下り。自分がどこに向かっているのかわからないが、眼前の急流を全力で進む。1つの急場を乗り越えたら次の難所がやってくる。その過程で力をつけていくのが若いころのキャリア形成。

本当の就職活動について知りたいときには

就職活動に関する書籍は玉石混交で、多くは「石」です。ES(エントリーシートと呼ばれる応募書類)の書きかたや面接の受け答えのしかたなど就活テクニックに腐心した内容が多い中で、より本質的な課題について解説している本を2冊紹介します。

『就活の法則 適職探しと会社選びの10ヵ条』 波頭亮・著 講談社 2007

学生は大学入試と同じ発想で、人気度や知名度、企業規模で就職先を選ぶ傾向にある。難関大学はそれだけ優秀な学生が集まり、高度な教育を受けられる可能性が高いので、偏差値で選ぶ意義があるが、就職は違う。「できること」の中から「したいこと」を選ぶ。内定はゴールではない。内定を取った後に本当の「就活」が始まる。

『偏差値40から良い会社に入る方法』 田中秀臣・著 東洋経済新報社 2009

ゆとり世代は、自分が大切にされていることに対する過剰な期待を持つ。彼らの活動のキーワードは「自分探し」であり、その代表が「自己分析」という作業だが、自分を知ること傾斜しすぎて企業を知ることが疎かになっている。学生は面接で、サークル活動などでこれまでの経験をアピールしようとするが、面接官が見ているのはやる気、積極性、コミュニケーション能力。